

## 第2学年1組 図画工作科学習指導案

指導者 小澤 直美

1. 日時・場所 平成19年12月5日(水)第5校時 多目的教室

### 2. 活動の指針(活動を通して育てたい力)

#### c - つくる喜び

表したい思いに合ったつくり方や表し方を進んで試したり、つくったりつくり直したりしながら、自分の思いや形や色でつくりだしていく喜びを味わうことを大切にしていく。

3. 題材名 「せかいにひとつだけのぼく・わたしの生きもの」

～ざいりょうのへんしん～ 2年・4時間扱い(立体で表す)

### 4. 活動の指針と題材のかかわり

男子14名、女子14名、全員で28名のクラスである。明るく元気な子どもが多く、何に対しても興味を持って活動に取り組むことができる。全体的によく手を挙げ、最近では、自分の思いや考えを言葉で表現できる子どもが増えてきたように感じている。また、図工が大好きな子どもが多く、「次の図工は、何をやるの」「はやく図工をやりたい」ととても楽しみにしている様子が伺える。

しかし、自分の思いを絵や形に表すことが苦手で、「失敗したからやりなおしたい」「うまくできない」と作品づくりに慎重になってしまう子どももいる。そのため「自由に手を動かそう」などと言葉がけをしながら、子どもがのびのびと作品づくりができるように心がけて授業を行ってきた。

低学年では、思いを膨らませて、それを絵や形で自由に表現してもらいたい。今回扱う「ざいりょうのへんしん」では、空想の世界に入りこみ、「世界にひとつだけのぼく・わたしの生きもの」をテーマに自分のつくりたい生きものをつくる。廃材や身近材を組み合わせたり、並べたりする中で、それらの材料が様々なものに変身していくことを十分に楽しみながら、活動してほしいと考えている。つくる過程で、つくりたいものをイメージし、構想する能力や構想に合わせ材料を選択する能力、その材料を組み合わせ思いの形につくりあげる能力などが育っていくと考える。また、身のまわりの材料が、使い方ひとつで命があるものに変身する喜びを感じることができると同時に、身の回りの忘れさられたものを見直し、大切にしていく姿勢につなげたい。

### 5. 「思いをふくらす創造的な技能」ための具体的な手だて

「世界にひとつだけのぼく・わたしの生きもの」をテーマに、こんな生きものがいたらいいなという子どもたちの思いを大切にしながら活動できるようにテーマを設定した。ただの生ものではなく、「自分だけの大切な生きもの」という思いをもって活動に取り組んでもらいたい。そのために、導入の時間を十分にとることで、子どもたちの思いが広がるような時間にしたいと考えている。「生きものはどこで暮らしているのか」「その生ものには何がついているのか」「どんなことをすることができるのか」などを話し合い、活動に入る前に「こんな生きものをつくりたい」という思いを持たせたい。

子どもたちが十分自分の思いに合う表現ができるようにするために、家庭でさまざまな廃材をたくさん集め、使いたい材料を自由に使えるようにと考えた。「材料コーナー」を設け、子どもたちが持ってきた廃材を素材や形、大きさ等で分類できるようにした。子どもたちは、廃材のみを用意するが、作品をつくっていく中でさらに広がった思いを生かすために、教師側でモール、アルミホイル、毛糸等の飾りになりそうなものを用意しておくことにした。

本題材では材料同士の接着について支援をしていきたいと考えている。子どもたちの「これをつくりたい。そのためにこれとこれをくっつけたい。」という思いを大切にするためには、さまざまな接着の技法を提示する必要がある。一年生で学習した「はこはこはこ」や2年生での「おはなしロボット」では、ガムテープやセロハンテープでの接着方法で作品をつくってきた。しかし本題材では、それらの技法は控え、テープがなるべく見えないような接着の方法を取り入れていきたい。「くっつけコーナー」を設け、のり、ボンド、セロハンテープ、両面テープ、ビニールテープの使い方を具体物を通して掲示することで、材料の素材に合わせた接着の方法がわかるようにした。セロハンテープは見えないように丸めて使うように指導して、ビニールテープは貼り方によって、模様や飾りになることを伝えていきたい。その他の接着方法として、発泡スチロール用接着剤やプラスチック用接着剤などの活用が考えられる。これらの強力接着剤は、ものともものがよくくっつき、接着面がきれいに仕上がる。しかし、本題材では、最初からこの方法を提示するのではなく、「くっつけコーナー」の接着方法ではどうしても対応できないようなものを接着するときのみ、紹介をしていきたいと考えている。「くっつけコーナー」や強力接着剤の活用によって、子どもたちの活動が豊かなものになればと考える。

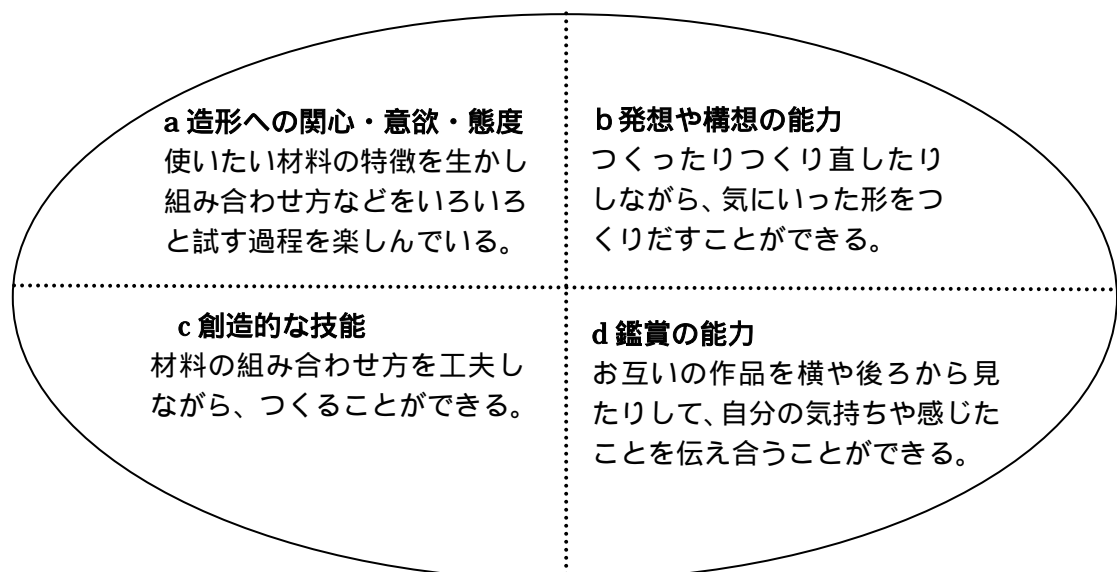
## 6．題材のねらい

身のまわりの材料の形や色を生かして、いろいろと試す過程を楽しむ。

材料の組み合わせ方などを工夫しながら、世界に一つだけの生きものをつくる。

自分たちの作品の形や色、表わし方の面白さなどを見つけ合う。

## 7．題材の評価規準（ 重視点）



## 8. 準備

子ども・・・廃材、はさみ、のり、木工用ボンド、折り紙、クレヨン

教師・・・廃材、身辺材（紙皿、紙コップ、はし、つまようじ、ストロー、竹串など）、化学接着剤、両面テープ、ビニールテープ、油性ペン、飾り（モール、アルミホイル、色画用紙、スズランテープ、毛糸）

## 9. 指導と評価計画（4時間扱い）

時間	活動内容 予想される子どもの姿	教師の働きかけ 評価規準・評価方法
事前準備・指導	<p>《事前準備》 家庭ででた廃材を集めておく。 持ってきた材料を形や素材にわけて、分類しておく。</p> <p>【材料コーナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙（牛乳パック）</li> <li>・ 紙（カップ・トレイ）</li> <li>・ 紙（箱）</li> <li>・ 発泡スチロール（トレイ）</li> <li>・ プラスチック（カップ・トレイ）</li> <li>・ プラスチック（たまごケース）</li> <li>・ プラスチック（ペットボトル）</li> <li>・ 缶・びん</li> <li>・ そのほか（小物・飾り）</li> </ul> <p>《事前指導》 はさみの持ち方や切り方を復習する。</p> <p>牛乳パックやラーメンカップを「へんしん」させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぎゅうにゅうパックの上をくっつけると東京タワーになるよ。</li> <li>・切ってひらくと海の生きもののエイやちょうちょうにへんしんするよ。</li> <li>・「へんしん」させるためには、切ったり、くっつけたり、ならべたりするといいいね。</li> </ul>	<p>《事前準備》 家庭ででた廃材を集めておくことを保護者と子どもに呼びかけておく。 収集・分類用の段ボール箱や小さい箱を用意しておく。 学年で集められるように廃材を持ち寄る 「材料コーナー」を廊下につくる。 持ってきた材料を形や素材にわけて、分類しておくように言葉がけをする。 教師は、集まりにくいと予想される材料や、飾りとして使えそうな身辺材を用意しておく。</p> <p>《事前指導》 一年生時にはさみの使い方を学習しているが、正しい持ち方や切り方ができているか確認する。 廃材（牛乳パック、ラーメンカップ、ペットボトル）を使って「へんしん」させることで、自由に見立てることを行い、発想する力を身につけさせていく。 「へんしん」には、曲げる、折る、切る、くっつける、並べるなどいろいろな変身の方法があることに気づかせていく。</p>

<p>一次 (45分) 本時</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「世界にひとつだけのわたし・ぼくの生きもの」をつくろう！！</p> <p>本題材のテーマを知る。</p> <p>材料を組み合わせたたり、並べたりしながらいろいろな形をつくる。</p>	<p>「材料コーナー」「くっつけコーナー」を設定する。</p> <p>はさみの使い方について、随時確認ができるように掲示しておく。</p> <p>思いをふくらませながらいろいろな形をつくっていくように伝える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【発】【関】活動の様子ども・つぶやき</p>
<p>二次 (90分)</p>	<p>自分がつくりたい生きものができあがったら、接着をしていく。</p> <p>つくったり、作り直したりする活動の中でさらに思いを広げ、表現する。</p> <p>つくっているものへの愛情をさらに増しながら、自分なりの表し方を広げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リボンをつけて、かわいらしくしよう。</li> <li>・色をつけるともっとよくなるな。</li> </ul>	<p>個別に接着がうまくできない子どもの指導をする。</p> <p>作品へのこだわりが見られ、工夫を広げている様子どもを認め、励ましていく。</p> <p>思いの広がりにより、はじめのイメージと変わっていても認めていく。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【発】【技】活動の様子ども・作品・つぶやき</p>
<p>三次 (45分)</p>	<p>友達と作品を見せ合う。</p> <p>お互いの作品を見て、空想の世界を共有して楽しんでいる。</p> <p>お気に入りの作品を見つけ、その良さを鑑賞カードに記入する。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【鑑】活動の様子ども・鑑賞カード</p> <p>自分のお気に入り作品を見つけ、そのよさを友達に進んで伝えるように促す。</p>

## 10. 本時の活動と指導（1 / 4時間）

### （1）目標

身のまわりの材料の形を生かして、思いをふくらませながらいろいろと試す過程を楽しむ。

### （2）展開

子どもの主な活動内容 予想される子どもの姿	教師の働きかけ 【評価規準】・・・評価方法
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                         「世界にひとつだけのぼく・わたしの生きもの」をつくろう！！                     </div>	
<p>本題材のテーマを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じぶんだけの生きもの、何がいいかな。</li> <li>・どんな生きものができるかな。わくわくするな。</li> </ul> <p>テーマについて考える。</p> <p>「生きものはどこで暮らしているのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海・川・宇宙・草原・ジャングル</li> </ul> <p>「その生きものには何がついているのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はね・大きな口・長い鼻・大きな耳</li> </ul> <p>「どんなことをすることができるのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこにでも飛んでいける。</li> <li>・いっしょに話すことができる。</li> </ul> <p>本時の注意事項を聞く。わからないことを質問する。</p> <p>材料を選ぶ。</p> <p>いくつかの材料を持って席に戻っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つくりたいものは、きまってないけど、いくつかもって行って、組み合わせてみよう。</li> </ul> <p>コーナーで立ち止まっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をもっていけばいいのかな。</li> </ul> <p>材料を組み合わせたたり、並べたりしながらいろいろな形をつくる。</p> <p>組み合わせたたり、並べたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牛乳パックをつなげると空を飛ぶ竜のように見えるよ。</li> </ul>	<p>多目的室が汚れないように床にブルーシート敷いておく</p> <p>「材料コーナー」を設定する。</p> <p>既習のはさみの使い方について、随時確認ができるように掲示しておく。</p> <p>「くっつけコーナー」を掲示し、のり、ボンド、セロハンテープ、両面テープ、ビニールテープでどのように接着するか具体物を置きわかりやすいようにしておく。</p> <p>本題材のテーマ「世界にひとつだけのぼく・わたしの生きもの」を発表する。みんなで集めた廃材と身辺材を使って、テーマにそった生き物をつくることを伝える。</p> <p>「材料コーナー」や「くっつけコーナー」について説明する。またはさみの使い方について確認する。</p> <p>順番を守って材料選びをするように伝える。使ってみたい材料をいくつか選び、自分の席に戻るように伝える。使わなそうな材料は、「材料コーナー」に戻すように言葉をかける。</p> <p>使ってみたい材料を持っていき、組み合わせてみるように言葉をかける。</p> <p>本時では、思いをふくらませながらいろいろと試すことが目標であることを確認し、接着は次回でよいことを伝える。ただし、つくりたい生き物ができあがった児童から接着をしてよいことも伝えておく。</p>

・世界にひとつだけの私の生きものができたから、くっつけたいな。  
どのように組み合わせたらよいか困っている。  
つくったり、作り直したりする活動の中でさらに思いを広げ、表現する。

自分がつくりたい生き物ができあがったら、接着をしていく。

接着している。

- ・トイレットペーパーの先に切りこみを入れてのりしろをつくるといいんだね。  
うまく接着できずに悩んでいる。
- ・トイレットペーパーのしんを足につけたいけど、どうやったらいいのかな。  
続きは、次の授業でやることを知る。

使ったものを元の場所に戻す。

イメージがなかなか浮かばない子どもには、対話をする中でイメージがふくらむようにする。

「くっつけコーナー」にいくように促す。

個別に接着がうまくできない子どもの指導をする。

【発】【関】活動の様子ども・つぶやき

次の授業で続きからやることを伝え、作品はそのままにしておく。使ったものは元の場所に片づけるように伝える。